

○町田義昭議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 大道寺議員ご指摘のとおり、指定管理者制度についての議論が、残念ながら長井市の場合は本当にきちんとしてこれないままに現在を迎えたという反省を私もしているところでございます。ただ、この制度自体は平成15年にできておりまして、18年までやってこなかったというのが問題だというふうに思ってます。例えば図書館のように、本来指定管理者制度でなくてもいいところをせざるを得ない状況にしてしまったり、あと地区公民館については、私は経費はかかりましするんですけども、むしろ指定管理者制度として地元にもっともっと権限を持たせた方がいいというもの、ケース・バイ・ケースかなど。あと児童センターについては大道寺議員ご指摘のように、直営ができないということから指定管理者ってなってるわけですね。その部分をやはり我々は役所の論理で市民の皆様、保護者に説明するんじゃなくて、保護者の立場からわかりやすく、まず協力をお願いしていかなくちゃいけないし、よりよい運営をしていかなくちゃいけないというふうに思います。ありがとうございます。

○町田義昭議長 4番、大道寺 信議員。

○4番 大道寺 信議員 いろんなあると思えますけども、過去のことを云々言ってももうスタートしてることですからどうしようもありませんので、まずこれからのことをどうするかっていうことを十分に議論を深めていただいて、ぜひ市民もわかりやすいような、そういう取り組みをしていただきたいということを申し上げて、質問を終わります。ありがとうございました。

竹田博一議員の質問

○町田義昭議長 次に、順位9番、議席番号1番、

竹田博一議員。

(1番竹田博一議員登壇)

○1番 竹田博一議員 本定例会に当たり、通告してあります2点について質問いたします。

私は長井市の教育行政が分け隔てのないことを願いながら、教育長に小学校将来構想について伺います。

昨年の9月定例会にも質問させていただきましたが、長井市の人口は年を追うごとに減少し、20年後には2万4,000人に減少するというふうに予想されております。それに比例して、子供の数も激減していくことは必至であります。現在、長井小学校は大規模校であります。それ以外の5校は小規模校に分類されるそうですが、このまま進んでいくと、近いうちに伊佐沢小学校は複式学級を取り入れざるを得ない状況下であります。

今、長井市ばかりでなく全国的に少子化のため複式学級になろうとしている学校が激増する状況になっております。そしてそれを防ぐべき対策として、学校の統合や合併が進んでおります。近隣自治体においても高島町は6小学校を2016年までに2校に、川西町は8小学校を2013年までに2校に、小国町は8小学校を2013年までに1校にするよう進められていることをご承知のことと思います。

複式学級にはメリットとデメリットがあり、デメリットの方が格段に大きいことは言うまでもありません。例えば、1つ、児童にかかわる指導時間が単式学級に比べ半分になり、学習効率が悪い。2つ、複数学年の教材研究及び分掌事務等で教師の負担が大きい等々が挙げられます。児童が切磋琢磨しながら社会性を養えるようクラスがえも望ましいが、まずは複式学級を解消するということが最優先に考えることが重要と思いますが、複式学級の考え方と学校の併合について伺います。

+

検討委員会での主な意見として、学校がなくなると少子化に拍車がかかる。小学校は地域づくりの中心存在、地域づくりと一緒に考えていきたい。定住人口の確保には学校不可欠である。長井の心は地域を愛する心、子供たちが地域に根付いてほしいと願っている。学校選択や統廃合は子供の健やかな成長にはよくない。将来的には統合も必要、どうなるか早目に情報提供してほしい。児童数の推移を見ると、今から検討しないと間に合わない。学区の調整や選択制は難しい。財政優先で数字合わせしないで、ぎりぎりまで存続させるべきである。統合は今の課題とせず、児童数が減った段階で結論を出してほしい。統廃合の是非や時期に関する意見は多様あるが、将来的に統廃合が必要となる時が訪れるとの危惧なり認識をそれぞれの委員が持っており、その一方で、できれば統廃合は避けたいという思いも持っている等々であります。検討委員会での貴重なご意見として受けとめさせてもらいました。

+

ただ、複式学級としての学校のあり方についての意見も欲しかったと思ったところです。意見の概要にもありましたが、「学校は地域づくりには欠かせない中心的存在」とよく言われておりますが、それは単式学級の学校の場合であって、複式学級の学校は別と考えます。私は指定管理者制度に生まれ変わった公民館こそが地域づくりの核となり、地域にとって最も重要な存在と考えます。学校のあり方は常に子供のことを第一に考え、決して子供を犠牲にしてはならないことだと常々思っているところであります。学校は地域づくりには欠かせないことの具体的根拠を伺います。

次に、意見の集約の方法について伺います。

教育委員会の方針では、複式学級となる可能性の場合は、保護者や地域の皆さんと十分に協議しながら慎重に対応を進める必要があるとあります。意見の集約をする場合、どんな方法で

集約をするのか、また子供の保護者の意見を最優先すべきと思いますが、ご所見を伺います。

次に、将来構想では、「10年から15年間程度現行のまま推移することが望ましいと考えます」とあります。伊佐沢小学校以外の学校は、10年から15年間複式になる可能性がない期間と思われる。やっぱり複式学級では不都合ということが頭にあることから、期間設定と思わざるを得ません。その間にも伊佐沢小学校は複式化が進み、全学年複式になる可能性が大であり、機会均等の面から見ても、納得できるものではありません。一方、地域のイメージに大きなダメージを与えかねません。当地区に定住しようと考えている保護者にブレーキをかけることにもなりかねません。学校は子供本位の考えで進めることが最善の策と考えますが、ご所見を伺います。

次に、市民防災公園構想について建設課長並びに生涯学習プラザ館長にお伺いします。

近年、新潟県中越沖地震、宮城内陸地震、岩手沿岸北部地震などの大地震、そして大雨による土砂災害等、突発的な災害が時々起こるようになりました。

+

長井市においては、小学校等の耐震化を早急に進めておるところであります。市民の避難場所については全戸に配布になった洪水ハザードマップにて説明を受けたところでもあります。今回、新たに生涯学習プラザ東側の場所を市民防災公園にするとしています。その目的と基本理念を伺います。

加えて、主な施設、例えば多目的広場、花の広場、駐車場、水路、飲料水兼大型貯水槽、非常用トイレ等々の施設計画予定について伺います。

また、生涯学習プラザ周辺の都市計画区域設定のほかに今泉地区まで拡大の考えについても伺います。

以上で壇上からの質問を終わります。ご清聴

ありがとうございました。（拍手）

○町田義昭議長 大滝昌利教育長。

○大滝昌利教育長 竹田議員のご質問、4点についてお答えをします。

まず第1点目、複式学級の考え方と併合についてということですが、今後15年の間に複式学級の可能性があるのは、伊佐沢小学校が平成25年度に2、3年生が合わせて13名ということで、複式学級になりますし、連続した2学年合わせて17名のところなどもあり、1名でも減れば複式学級というところもあります。今後15年の間では伊佐沢小は3学級から4学級ということも考えられる状況です。

複式学級には先ほども竹田議員の方からありましたが、メリットもデメリットもありますが、学力の面では複式学級の指導の研究も進んでいますので、それほど心配はないのではないかと思いますし、上学年が下学年の面倒を見るとか、自学自習の力などはついていくのではないかと思います。ただ、大きな集団の中で憶せず自分を発揮する力がどうなのか、スポーツやゲームなど集団的な活動で身につける力がどうか、また大きな集団に入って不適應を起こさないかなどの心配な点も出てきますが、そういうことも考えた対応が小学校時代に必要になってくると思っています。長井市の中学校は統合中学校ですので、小・中の連携を密にし、中1ギャップが起きないように、現在も小・中が連携して小規模小学校から入学した生徒もスムーズに中学校生活を送れるよう工夫をしているところですので、複式学級になったから即統合とは考えていません。大事なのは、当該児童の保護者の考えですので、複式学級について十分に説明を申し上げたり、実際に複式学級の学校の授業を見ていただいたりした結果の保護者の考え方を尊重して検討していきたいというふうに思っています。

2番目、学校は地域のづくりには欠かせない

ことの具体的な根拠はということですが、昔は1村1校で、学校を拠点に文化・スポーツの振興が図られてきたのではないかと思います。また、子供を通して学校に人が集まり、顔見知りになり、つながりができて地域の協力体制が醸成されてきたということもあるのでないかと思います。そして何よりも地域に学校があり、そこから子供たちの元気な声が聞こえてくることによって、地域に活力が生まれるものと考えます。そこに学校がなければ、若い人たちはより学校に近い場所に移り住むようになるかもしれません。竹田議員ご指摘のように、公民館は地域づくり、生涯学習の拠点施設ではありますが、子供が主役ではありません。学校は子供を中心に子供の健全育成を願って地域の人が集まるというところに公民館とは決定的な違いがあると思っています。そういう意味では、学校は公民館とはまた違う地域づくりの拠点ではないかというふうに考えているところです。

3番目、複式学級になる場合は、保護者や地域の皆さんと慎重に対応を進める場合の意見の集約方法はということですが、これまでも伊佐沢の将来を語る会とか、伊佐沢児童センターの保護者会、昨年度末には伊佐沢小の保護者会の折に複式学級について説明をしています。統合と違って複式学級については直接子供たち、そして保護者、教職員に関係するわけですので、特に該当する学年の保護者の方には、再度丁寧に説明をしながら、意見交換の場を設けて考えを聞きたいと思ひますし、できたらPTAの研修として複式学級のある学校で実際に授業を見せてもらったり、保護者同士の交流を図るような研修も必要でないかなというふうに考えています。必要があればアンケート調査なども検討したいと思ひます。

地域の方には伊佐沢の将来を語る会のような場で再度説明し、考えをお聞きしたいと考えています。

+

4点目、10ないし15年間程度現行のまま推移することの考え方とその後の考え方はということでございますが、長井市小学校の将来構想について、検討委員会の結果を踏まえた教育委員会の方針をお示したところです。その中で、「今後10年から15年程度は現行のままで推移することが望ましい」という考え方を出したところですが、現在、県内の公立小学校の65%は児童数が200名以下の学校になっています。100名以下の学校も42%ほどあります。統合が進んだとしても200名以下の学校がなくなるわけではないと思っていますし、山形県政策企画課が平成18年度に発表した推計人口によりますと、今後15年程度は伊佐沢小を除いて1校100名程度以上で推移されることが予想されます。先ほど申し上げましたが、学校は地域づくりの核であり、長井の心の原点でもあるというとらえ方をしていますので、検討委員会の結果にもあったように、ぎりぎりまで統合は考えず、維持したいと考えているところです。

その後については、児童数の減少、保護者や地域の声、近隣市町の状況などを見ながら検討する必要があると思っています。伊佐沢小については10年、15年と言わず、その前の時点で検討しなければならない時期が来るのではないかとおもわれますが、折々に話し合いを持っていきたいというふうに考えているところです。以上です。

○町田義昭議長 鈴木一則建設課長。

○鈴木一則建設課長 竹田博一議員のご質問にございましたプラザ周辺の都市計画区域設定、それから今泉地区まで拡大する考え方という点についてお答えを申し上げます。

まず、現状についてお話をさせていただきたいと思います。一つ長井市の理由としてでございますが、後ほどプラザ館長から今回の整備についての具体的などところにつきましてはお話があると思いますが、プラザ用地に防災機能を有

する運動公園、いわゆる都市公園という位置づけであります。そちらを整備するためにですが、これに当たり県の協議を進めてまいりました。要件として、公園設置区域が都市計画区域内であることが条件というふうなことが明確となつてまいりました。また、このプラザ用地に関しましては、用地の先行取得に係る財源の関係から、公園整備というふうなことを手段といたしますと、整備終了の期限が決まっていると、後ろが決まっているということから、都市計画区域の編入するためには平成22年度末までに何とか編入の必要があるというふうな条件が見えてきたところでございます。

課題といたしまして、都市計画区域の拡大につきましては、市の都市計画審議会等関係法の所管の手続のほか、最終的に県の都市計画審議会の審議、いわゆる意見を聴取いただくというふうなことが必要になってくるのでございますが、このたびの長井市のような都市公園整備程度の理由では区域拡大の許可がおりないという指摘を県の担当部署より受けたところでございます。

もう1点の理由がございます。山形県の都市でございますが、ことし3月、山形県から道路整備網が整備される、自動車交通の利便性が向上が図れる箇所につきましては、山形県としても都市計画区域の指定を目指したいということと、平成22年度までに何とか手がつけられるところはやりたいというふうな方針が出されております。私ども置賜エリアにつきましては、当然ながら東北中央道、それからさまざまな整備が今進んでおりますが、置賜エリアの土地利用の秩序を保つためにも広域にわたり都市計画区域の指定を進めたいというふうな意向が示されました。長井市周辺に関しましては、置賜病院周辺なんです。整備区間に昇格し、事業化となりました地域高規格道路「新潟山形南部連絡道路」の一部となります国道113号梨郷

道路と、それから平成25年の完成を目指し進められている一般国道287号南バイパスの周辺地域でございます川西町大塚、それから長井市では長井市今泉、歌丸、河井、時庭の一部が含まれております。時庭には一部未指定の部分がございますが、その部分も含まれております。

山形県につきましては、先ほど申し上げましたように、平成21年度内に区域拡大に取り組む意向が強く、長井市とともに川西町へ同様に働きかけを行っているというような状況でございます。

山形県の意向として、長井市が県の状況などを踏まえてでございますが、都市計画の見直しという部分、プラザの拡大の部分も含めてですが、許可に向け頑張るといいますか、手続を進めるというふうなことをする場合は、県としても全面的にバックアップを行って手続を進めたいというふうな意向が示されたところでございます。

長井市といたしましては、このような状況を受けまして、8月の中旬に庁内の関係部署の担当者と検討会というものを開かせていただきまして、現状の把握や課題の抽出というふうな部分を行ってきているところでございます。

長井市といたしましても、さきに作成の土地利用に関する関係計画として、第4次長井市総合計画、それから長井市都市マスタープラン、第3次長井市国土利用計画等ございますが、こちらの中にも道路整備が進みます今泉地区、歌丸地区の一部、河井地区、時庭地区の一部など道路整備の進むところにつきましては、今後都市計画区域に拡大し、産業振興や住宅政策などの政策誘導を図っていくことを明確にしながら、今後地元のご理解を求めていくべきではないかというような方針が出されましたので、現在拡大する範囲の考え方などにつきまして、県と協議を進めておるところでございます。今後は審議会を含め、関係機関についてもご意見をいた

だきながら進めていきたいという考えでございます。以上でございます。

○町田義昭議長 浅野敏明生涯学習プラザ館長。

○浅野敏明生涯学習プラザ館長 竹田議員のご質問にお答えしたいと思います。

プラザ運動公園の計画予定というふうなことでお答え申し上げたいと思います。

ただいま建設課長からお答えありましたように、補助金申請までに都市計画の区域の要件が必要となりますが、現在、置賜生涯学習プラザ運動公園の整備について、平成22年度国庫補助対象事業として採択を受けるべく準備を進めているところでございます。この補助対象となる補助メニューでございますが、都市公園事業費補助の統合補助事業ということになります。これは防災機能を有する運動公園として計画をしているところでございます。防災公園の位置づけ、機能でございますが、これは大規模な地震災害時における救援活動、物資輸送を行うための災害救援活動の拠点としての機能を有する公園でございます。そしてまた、避難者を収容する機能としての機能も有するところとなります。また、長井市では現在、大規模地震等の災害時における仮設住宅建設予定地として定めてるところでございます。

具体的な施設でございますが、今後関係機関、関係団体との調整、それから基本設計等で詰めていくこととなりますが、陸上グラウンドを基本施設として、ヘリポート、備蓄倉庫、便益施設、トイレとか水飲み場でございますが、照明施設、それから駐車場整備、多目的広場などの整備を想定しているところでございます。

都市計画公園事業の中には、防災公園というふうな単独の事業もあるわけでございますが、これは10ヘクタール以上という大規模な公園を指しておりまして、今回長井市の公園については、プラザ施設周辺を含めまして8.7ヘクタールでございます。統合補助事業というふうな該

+

当しますので、いわゆるミニ防災公園として整備を行う予定としております。以上です。

○町田義昭議長 1番、竹田博一議員。

○1番 竹田博一議員 それぞれからのご答弁ありがとうございます。

教育長に伺いますけども、きょうの山形新聞にも載っておりましたけど、高畠の時沢小が屋代小に統合されることになるんだというような記事が載っておりました。今、教育長からお話あったように、複式学級と単式学級を比べた場合、余り差がないんだと。どっちが悪いとかどっちがいいとかっていうふうなんでないのだというようなご答弁でありましたけど、全国的に見ますと、複式学級を解消するために統合している、統合を進めている自治体が数多くあると思うんです。何もどっちでもいいというなら統合する必要ないんですね。この検討委員会でも10年から15年はこのままで考えるんだと出ていますけど、そういうふうなことになるんですと、検討委員会も要らなかったような、このままでずっと永久に学校置いていくんだと。地区には欠かせない施設ですから、もう絶対に地区からはなくしちゃならないと言うんなら、やっぱり複式学級になろうと何になろうと、置くべきだというような結論になってしまうんですね。私はそうではないと思うんです。やっぱり学校は子供のためにあるんですから、地域のためもそれは多少あると思うんですけど、つまりは長井市だってもう10年か20年とか何十年後にはこうなると思うんですよ。1校になるか2校に統合になるか、それはわかりません。

今のお答えいただきましたことに関しては、伊佐沢地区の父兄並びに地区の方が、もうそれじゃあだめだと、今の複式学級ではだめだというような結論が出れば、いつでも統合するというような考え、統合していただけるというような考えでいいんですか。

○町田義昭議長 大滝昌利教育長。

○大滝昌利教育長 今、複式学級解消のための統合というのは、やっぱり全国的には進んでるわけで、特に西置賜管内では小国町内、これごく小規模校で、または小・中併設校ということで、同じ集団で中学校に上がっていくわけですよ。これは問題が多いと思うんです。長井市の場合は先ほども申し上げましたけども、例えば伊佐沢小学校が非常に80人、70人規模の学校で、または複式学級が1学年ぐらい出てくる学校であっても、中学校は統合中学校で4ないし5学級の学校に入られる。これはある程度その時点で、いろんなマイナス面も解消できるということもあります。ただ大事なものは、さっきも申し上げたように、小学校から中学校に入るときギャップといいますか、それが出ないように十分に気をつけなきゃならないというふうに思っています。

ただ、伊佐沢小学校が今後複式学級が2学年にまたがって出てくる、または複式学級を実際経験して、その該当の保護者の方が、いや、これではだめだと、大変でだめだというふうな話し合いになれば、それは教育委員会としても検討するということになると思います。

○町田義昭議長 1番、竹田博一議員。

○1番 竹田博一議員 ありがとうございます。

今のお答えをいただきまして、ほっとしたところでもあります。ほかの致芳、西根、平野、豊田に比べると伊佐沢は半分もいない児童でありますので、多分ほかの学校の父兄も15年とか20年後には複式学級よりも単式学級で習わせたいというのがやっぱり親心だと思うんですね。学校のない地域なんていうのは全国幾らでもあるんですよ。それでもちゃんとその地域はまとめてやってるんですね。学校は、そういう地域はどういうふうだと思いますか、そういう地域は。

○町田義昭議長 どなたでしょうか。

○1番 竹田博一議員 教育長です。

○町田義昭議長 大滝昌利教育長。

○大滝昌利教育長 私も校長時代に白鷹の十王小学校が統合の1年前まで校長でおったんですが、当時地域の方が非常に心配されたのは、やっぱり十王小学校という一つの学校を中心にして十王地区がまとまっておったと。それが荒砥小学校に統合になる段階で、その十王という地域、これが崩壊するんじゃないかという心配を非常になさっていました。やっぱりあの当時もいろいろ学校の行事のたびに地域の方、おじいちゃん、おばあちゃんも含めて集まるわけで、そういう中での地域づくりというか、地域コミュニティの強化というのがなされてきたんだと思います。

ただ、今現在どうなのか、荒砥小学校に移行して十王というその地域がどうなったのか、ちょっと私わかりませんが、それぞれの地域には公民館もあるわけですが、さっきも言ったように、公民館はやっぱり学校と違う社会教育施設なんだというふうに思います。ただ、公民館を中心にしたいろんな集まりの中で、地域の協力体制の強化というか、これをやっていくということは可能だと思いますが、学校がなくなったから地域がすべてなくなって崩壊するなんていうことではないというふうには思いますけども、やっぱりあったときよりもまとまりというか、固まりというのが何かちょっと薄れてくるんじゃないかなという気は私はします。

○町田義昭議長 1番、竹田博一議員。

○1番 竹田博一議員 あと学校は定住人口の確保になるというように書いてありますが、これを具体的にご説明いただけますか。

○町田義昭議長 大滝昌利教育長。

○大滝昌利教育長 検討委員会の中で委員の方から出てきたご意見というふうに思いますが、結局さっきも申し上げましたけども、学校がなくなった場合に子供の通学のためにということで学校の近くに親が移住しないかと。ここに学校

があるから、そこに今いるけども、例えば伊佐沢小学校がどっかの学校と統合したというときに、より近いところに移っていきはしないだろうかという、そういう危惧のように思っています。

○町田義昭議長 1番、竹田博一議員。

○1番 竹田博一議員 それは普通の単式学級の場合であって、複式学級の場合、もう定住の確保ってということにはならないのではないかと私、予測するんです。というのは、やっぱり親心として普通の授業を学ばせたいという気持ちはあるわけですね。将来、自分のうちの米びつになる子供ですから。複式学級に例えばなりますと、ほかからはもちろん伊佐沢というか、複式学級の学校には来ないと思うんですよ。むしろ出てってしまうんじゃないかと、私その心配してるんです。

例えば、長井小学校に行くことになった後、仮に伊佐沢が長井小学校に行くことになったんだということになりますと、ああ、長井小学校に行けるんだと、複式じゃなくなるんだと。それならスクールバスでも送っていただけるわけですから、伊佐沢は環境がいいし、移り住んでみようかなというような考えになって、むしろ学校がなくなって長井とかどっかに統合になることによって、伊佐沢の定住人口がふえる可能性があるかと、私はそういうふうに見てるんです。複式学級になりますと、ああ、複式学級だからもうあそこには行かないと、学区はあそこはもう、あそこに行きやあ必ず複式学級にならざるを得ないんだというふうになりますと、もう来る人いないんですよ。だからその発想というか、その考え方についてお聞きしたいと思います。

○町田義昭議長 大滝昌利教育長。

○大滝昌利教育長 私は竹田議員と全く逆の発想でしたので、ちょっとかみ合わなかったなというふうに思うんですが、私は小学校は、小学生

というかな、はできるだけ徒歩で登下校できるような範囲がいいと思ってるんです、正直。ただ、こういうふうにだんだんと少子化が進んできて、人数が減ってきた場合にも、例えば複式学級になった場合にはいろんな問題も出てきますから、そういうふうなことも解消しなきゃならないと。ただ、長井小学校にという話ありましたが、どこの地区でも小学校を統合する場合には親御さんの意見と地域の長老の方の意見が違うんだそうですね。で分けて話をしないとどうにも話がまとまらないと。もしもその地区の、実際に児童を持っている保護者の方がどういうふうに考えているのか。本当にどっかに統合しよう、複式はだめだから統合しようとしているのか、やっぱりそれによってはちょっと検討したいというふうには思います。先ほどお答え申し上げたとおりです。

○町田義昭議長 1番、竹田博一議員。

○1番 竹田博一議員 ありがとうございます。

ぜひ慎重に検討をなさっていただきたいというふうに思います。

それから、防災公園についてお伺いします。

まあ構想ですからそんなに具体的な計画はないと思うんですけども、防災のときだけ使うんじゃないかって、そこでイベントやそれからベニバナを植えたり何か花を植えたりして花公園にしたりして、楽しんでいただくことも考えていらっしゃるのか何か、お願いします。

○町田義昭議長 浅野敏明生涯学習プラザ館長。

○浅野敏明生涯学習プラザ館長 お答えいたします。

先ほどちょっと触れさせていただきましたが、通常は運動公園として利用を行います。それが例えば大きな地震等が発生した場合には、そこが救援の活動の拠点となったり、避難地、それから長期にわたる場合は仮設住宅の建設予定地ということも想定されます。陸上グラウンドとして通常利用する場合でございますが、そのト

ラックの中のフィールド、これは芝生として整備すれば、そこはサッカーコートとしても利用できると。それから陸上グラウンドのスタンドをつくるとすれば、そこは備蓄倉庫としても利用可能だと、そういうことも踏まえて、今後検討していきたいというふうに考えてます。以上です。

○町田義昭議長 1番、竹田博一議員。

○1番 竹田博一議員 ぜひいろんなことに使えるようお願い申し上げたいというふうに思います。

以上で質問を終わりたいと思います。ありがとうございました。

○町田義昭議長 以上で一般質問は全部終了いたしました。

散 会

○町田義昭議長 本日は、これをもって散会いたします。

ご協力ありがとうございました。

午後 2時47分 散会